

胎児エコーの“成功体験” - 卒業前演習の工夫 -



愛仁会看護助産専門学校 助産学科

■ 概要

当校の助産学科では、卒業前の学生を対象にシミュレータを用いた助産技術演習（妊婦腹部触診／内診／分娩／産褥子宮触診）を実施しています。学生は技術ごとに分けられた学びの場を、グループ（3名程度）で順回します。学生が主体的に教え合うかたちにし、教員は適宜指導やチェックを行っています。

今回は新規に胎児超音波検査（計測）を加え、映像教材（YouTube）とシミュレータを使用しました。学生にはあらかじめ映像を視聴してもらい、演習当日は1名ずつ映像を確認しながらシミュレータで描出および計測を行いました。



■ 指導者の想い



愛仁会看護助産専門学校
助産教育部

この演習は、“自己の課題を明確にし、自信をもって就職してほしい”という教員の想いが込められた“まとめ”の場です。助産ケア（妊娠・分娩・産褥・新生児期）に必要な知識・技術を再確認することができます。

今回あらたに追加した胎児超音波検査は、学習時間が限られているため“成功体験”が難しい技術の一つです。少しでも学生の自信につなげる方法はないか思案していたところ、YouTubeで公開されている胎児超音波検査の映像教材と出会い効果的な演習が実施できました。

映像は経験の浅い学生でもプローブの位置や角度が理解しやすく、画面構成も工夫されています。当初「胎児のどこをみているのかわからない・・・」と言っていた学生が「描出できた!」と喜んでいる姿を見て、今後もこの方法を取り入れたいと思っています。

この演習で得た経験を今後も活かしてほしいと切に願っています。

胎児計測 (BPD・AC・FL)

- 全員で映像(計測編)を視聴
- シミュレーターで実践
- 映像・胎児模型を参考に
画像描出と胎児計測を実施

YouTube 動画

シミュレータ

胎児模型

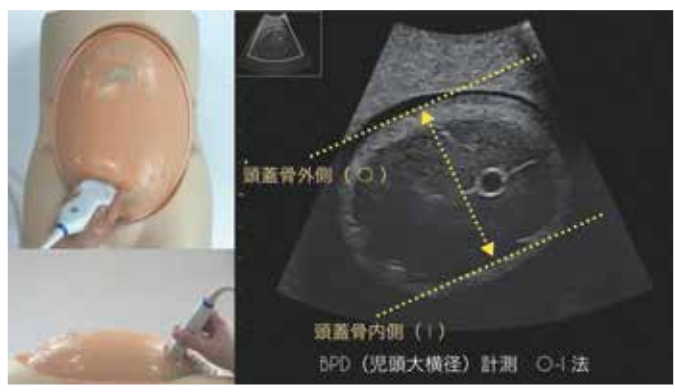
教育用エコー装置

■ 学生の声

- 胎児超音波は“難しい”というイメージが強く、自信がありませんでした。映像と付属の胎児模型を参考にし、苦手だった胎児の大腿骨を描出することができ、自信につながりました。
- 映像は計測ポイントの探し方についての解説もあるため、臨地実習前後の予習・復習や国家試験対策に活用できると思いました。



- ☞ 探触子(位置・角度・走査)の把握
- ☞ いつでもどこでも学習(予習・復習)



映像教材

計測編 / スクリーニング編

監修：近畿産科婦人科学会 / 近畿産婦人科実習セミナー (POP-K) 実行委員会
制作：大阪大学大学院医学系研究科 産科学婦人科学教室